

小音1

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

小学校音楽科 分科会

担当大学	エリザベト音楽大学		
講 師	福原之織 (エリザベト音楽大学教授) 川上 統 (エリザベト音楽大学講師)、壬生千恵子(エリザベト音楽大学教授)		
対 象	小学校の音楽科担当教員等	定 員	40 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	これからの授業づくり～ヒントと実践		
研修内容の概要	本研修は、大きく3つの内容から構成されます。1「学習指導要領を踏まえた授業づくりを考える」では、学習指導要領に関する受講者の疑問を出発点に、より深い理解と効果的な授業実践に結びつく考え方を検討します。2「デジタルデバイスによる音楽づくり(基礎～)」では、新しい音楽づくりの実践として、創作ICTツールを使用した授業アイデアの可能性を探ります。3「パイプオルガンの世界をのぞいてみよう」では、中学校鑑賞教材への導入として、実際の演奏を交えながら、パイプオルガンの仕組みや奏法、音楽を紹介します。 【学習指導要領との関連】 1 小学校音楽科:学習指導要領全体 2 小学校音楽科:「A表現」(3)ア、イ、ウ(音楽づくり)、〔共通事項〕 「指導計画の作成と内容の取扱い」2(1)ウ、(6)ア 小学校総則:第3の1(3)ア、イ(プログラミング学習に関する事項) 3 小学校音楽科:「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕		
内容と方法	1 「学習指導要領を踏まえた授業づくりを考える」(志民一成教科調査官、司会:壬生千恵子) Topic1 学習指導要領に関する質問やこれからの授業づくりについて、事前受付した受講者の疑問を出発点に、より深い理解と効果的な授業実践に結びつく考え方を検討 Topic2 「新しい生活様式」と小学校へのアウトリーチのこれからについて、現状報告と対談 2 「デジタルデバイスによる音楽づくり(基礎～)」(講師:川上 統) 創作ICTツール(i pad/Garage band)を使用した音楽づくりの実践と解説 3 「パイプオルガンの世界をのぞいてみよう」(講師・出演:福原之織 他) エリザベト音楽大学のパイプオルガンをういた楽器の紹介と楽曲の鑑賞、(中学校鑑賞教材との関連性を踏まえた小学生用の解説)動画視聴		
到達目標	1 学習指導要領の目標や各事項、授業づくりに関する理解を深める。 2 創作用のICTツールを活用しながら、音を音楽へと構成することと、プログラミング的思考の関係に気づき、音楽づくりの指導について考えを広げる。 3 音や音楽と人々の生活や文化などの音楽の背景との関わりについて考え、音楽文化を継承、発展、創造していくこうとする態度の育成に育成つながらる素地を、小学校でいかに培うかについて考えを広げる。		
スケジュール		研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
		分科会開始	
	13:10～13:50	1 学習指導要領を踏まえた授業づくりを考える	リアルタイム
	14:00～14:50	2 デジタルデバイスによる音楽づくり(基礎～)	リアルタイムor 動画視聴
			各自作業を含む
	15:00～15:40	3 パイプオルガンの世界を覗いてみよう	動画視聴
	15:40～16:00	まとめ (教科調査官)	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩・準備	リアルタイム
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	小学校学習指導要領解説(音楽編) 音楽づくり用デジタルデバイス (ipad / garage band) 或いはそれに代わるもの		
特記事項	・事前・事後課題の有無: 1 事前に質問を受け付けます。質問内容は適宜、テーマ等に照らして当方で選択させていただきます。 全てのご質問にお答えできない場合もありますので、予めご了承下さい。 ・資料配布:特にありません。 ・受講する上での環境条件等: 2 ipad (アプリ garage band)を使用予定です。作業説明を含めませんが、視聴だけでも可能です。		

小音2

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

小学校音楽科 分科会

担当大学	東京藝術大学		
講 師	石上 則子(日本女子大学非常勤講師) 市川 恵(早稲田大学教育・総合科学学術院講師)		
対 象	小学校の音楽科担当教員等	定 員	40 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音楽づくりの実践と授業研究を通して音楽づくりの新たな指導法、授業展開の視点や方法を探究する		
研修内容の概要	新型コロナウイルスの影響で、従来通りの方法では歌唱や器楽の実践が難しく、学校現場では様々な試行錯誤が続いている。また、これまで以上に鑑賞や音楽づくりの活動の割合が増えているという現実もある。 本研修では、音楽づくりに焦点をあて、指導法や授業づくりについて実践的な提案を行う。実践例や授業研究の実際を通して音楽づくりの可能性や課題を探究するとともに、講師による具体的な音楽づくりの実践提案を実体験することを通し、授業改善に結び付け視点を学ぶ。 【学習指導要領との関連】 小学校音楽科：「A表現」(3)ア、イ、ウ〔共通事項〕		
内容と方法	本研修は、講師の実践提案による音楽づくりの指導法を受講生一人一人が経験し、それをどう授業に生かしていくかについて協議、考察する研修(①)と、音楽づくりの授業研究を通して見えてきた成果と課題について考察する研修(②)から構成される。具体的には、リアルタイムでの講義と協議、動画を活用した実践提案、授業の動画を対象とした授業研究の実践を行う。		
到達目標	1 音楽づくりに関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、音楽づくりの活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、音楽づくりの指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。		
スケジュール	13:00～13:10	オリエンテーション・Web会議システム等の操作確認	リアルタイム
	13:10～13:40	音楽づくりの実践提案(常時活動含む)(研修①)	リアルタイム
	13:40～14:00	ディスカッション・質疑応答	グループワーク
	14:00～14:25	音楽づくりの実践事例の視聴(研修②-1)	動画視聴
	14:25～14:40	休憩	
	14:40～15:10	実践事例の分析(研修②-2)	リアルタイム
	15:10～15:40	授業のリフレクション	グループワーク
	15:40～16:00	音楽づくりの可能性と課題(ディスカッション)及び振り返り	グループワーク
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	・事前・事後課題: 無 ・資料の配布方法: 当日に提示		

小図 1

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

小学校図画工作科 分科会

担当大学	東京造形大学		
講 師	海士智也(東京造形大学准教授) 石賀直之(東京造形大学教授) 小林貴史(東京造形大学教授) 山田猛(東京造形大学教授)		
対 象	小学校の図画工作科担当教員等	定 員	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ーグラフィックデザインの思考を通して学ぶ創造的に発想や構想することとはー		
研修内容の概要	【前半】 実技講習(海士智也准教授) ポスターからチラシ、今はデジタル画面まで、無数の作品が世界中にあふれるグラフィックデザインという分野。その思考は「価値を変換すること」や「領域をまたいだ関係をつなぐこと」です。 本講座では、音楽を聴いてそれを「抽象性の高いカタチ」に変換していくといった聴覚から視覚への変換、関係性のコラージュといった実技を通し、図画工作科における学びを大きく拡張していくヒントを探ります。さらに、創造的に発想や構想することを育む「グラフィックデザイン思考」とは何かその本質を学んでいきます。 【後半】 実技講習に関連し、小学校図画工作科で求められる資質・能力の育成に関するディスカッションを行い、より実践的に理解を深めていきます。 (石賀直之教授 小林貴史教授 山田猛教授) 【学習指導要領との関連】 小学校図画工作科:「A表現」(1)イ〔共通事項〕		
内容と方法	前半:創造的に発想や構想する力を育む学習指導のあり方に関連する実技を中心とした講習 後半:前半の講習を基に授業改善の実際を想定しグループ内で発表する		
到達目標	高等専門教育における造形表現及び理念を体験し、小学校における授業改善の可能性について議論し発表することを通して、図画工作科における指導方法の理解及び改善をすることができる。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:20	前半1 理論講習	リアルタイム
	13:20～14:10	前半2 実技	各自作業
	14:10～14:40	前半3 講評及び解説	リアルタイム
	14:40～14:50	休憩	各自作業
	14:50～15:00	後半1 授業改善の視点に関する講義	リアルタイム
	15:00～15:30	後半2 授業改善の原案作成	各自作業
	15:30～16:00	後半3 グループ内による発表	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	8つ切画用紙10枚、水彩絵の具またはカラーペンなどの着彩ができる描画材、のり、はさみ		
特記事項	・事前・事後課題の有無: 特になし ・資料の配付方法: 個別に郵送にて配付 ・受講する上での環境条件等: 配布するMP3データ(ZIP圧縮)を視聴できるパソコン及びパソコンの前で描画ができる程度のスペース		

小図 2

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

小学校図画工作科 分科会

担当大学	東京造形大学		
講 師	和田敏克(東京造形大学准教授) 石賀直之(東京造形大学教授) 小林貴史(東京造形大学教授) 山田猛(東京造形大学教授)		
対 象	小学校の図画工作科担当教員等	定 員	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 —タブレットを活用したアニメーション製作を通して学ぶ創造的に表すこととは—		
研修内容の概要	【前半】 実技講習(和田敏克准教授) 現代においてアニメーションはもはやTVや劇場で「観る」だけのものではありません。日々の生活の中で、何かに生き活きと生命を感じたとき、「発見」「命を与える」ことのできる新しい表現手法です。映像機器がいくら高品質に発達しようと、自分の手の中でモノが動き始めた瞬間の驚きと興奮こそがアニメーションの本質です。絵さえ描く必要はありません。 本講座では、身近なスマートフォンおよびタブレットを使って、その本質を体感することを通し、単にデジタルデバイスを使うだけに留まらない創造的に表すこととはどのようなことか考えます。 【後半】 実技講習に関連し、小学校図画工作科で求められる資質・能力の育成に関するディスカッションを行い、より実践的に理解を深めていきます。(石賀直之教授 小林貴史教授 山田猛教授) 【学習指導要領との関連】 小学校図画工作科:「A表現」(2)イ〔共通事項〕		
内容と方法	前半 創造的に表すことを学ぶ学習指導に関連する実技を中心とした講習 後半 前半の講習を基に授業改善の実際を想定しグループ内で発表する		
到達目標	高等専門教育における造形表現及び理念を体験し、小学校における授業改善の可能性について議論し発表することを通して、図画工作科における指導方法の理解及び改善をすることができる。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:20	前半1 理論講習	リアルタイム
	13:20～14:10	前半2 実技	各自作業
	14:10～14:40	前半3 講評及び解説	リアルタイム
	14:40～14:50	休憩	各自作業
	14:50～15:00	後半1 授業改善の視点に関する講義	リアルタイム
	15:00～15:30	後半2 授業改善の原案作成	各自作業
	15:30～16:00	後半3 グループ内による発表	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	材料(ホワイトボード、マグネット)を個別郵送 ハサミを準備しておく		
特記事項	・事前・事後課題の有無:アニメーション制作に使用するフリーアプリをダウンロードしておく(ダウンロードアプリに関する詳細は個別配布される材料に同梱) ・資料及び材料の配付方法:個別に郵送にて配付 ・受講する上での環境条件等:スマートフォンまたはタブレット(受講に必要なパソコンは別途用意)		

小図3

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

小学校図画工作科 分科会

担当大学	東京造形大学		
講 師	岩瀬大地(東京造形大学准教授) 石賀直之(東京造形大学教授) 小林貴史(東京造形大学教授) 山田猛(東京造形大学教授)		
対 象	小学校の図画工作科担当教員等	定 員	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	美術の専門実技講習を基にした小学校図画工作科における授業改善 ー持続可能な社会づくりの視点から学ぶ創造的に発想や構想することとはー		
研修内容の概要	【前半】 実技講習(岩瀬大地准教授) SDGs(持続可能な開発目標)や持続可能な社会づくりが人類共通の課題として注目されています。これを受け、学習指導要領に持続可能な社会の創り手を育んでいくことが教育の大きな目標として位置付けられました。これに伴い持続可能な社会の実現のために、子供達の豊かな想像力や創造性を育んでいくことが今後重要になってきます。 本講座では、サステナブルデザインやその考え方や事例をヒントに持続可能な社会づくりに必要となる創造的に発想や構想する力を育むために図画工作科の授業でどのような試みが可能か考えます。 【後半】 実技講習に関連し、小学校図画工作科で求められる資質・能力の育成に関するディスカッションを行い、より実践的に理解を深めていきます。(石賀直之教授 小林貴史教授 山田猛教授) 【学習指導要領との関連】 小学校図画工作科:「A表現」(1)イ 〔共通事項〕		
内容と方法	前半:創造的に発想や構想する力を育む学習指導に関連する実技を中心とした講習 後半:前半の講習を基に授業改善の実際を想定しグループ内で発表する		
到達目標	高等専門教育における造形表現及び理念を体験し、小学校における授業改善の可能性について議論し発表することを通して、図画工作科における指導方法の理解及び改善をすることができる。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:55	前半1 理論講習	リアルタイム
	13:55～14:25	前半2 実技	各自作業
	14:25～14:40	前半3 講評及び解説	リアルタイム
	14:40～14:50	休憩	各自作業
	14:50～15:00	後半1 授業改善の視点に関する講義	リアルタイム
	15:00～15:30	後半2 授業改善の原案作成	各自作業
	15:30～16:00	後半3 グループ内による発表	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	8つ切画用紙2枚、水彩絵の具またはカラーペンなどの着色ができる描画材		
特記事項	・事前・事後課題の有無:特になし ・資料の配付方法:個別に郵送にて配付 ・受講する上での環境条件等:パソコン及びパソコンの前で描画ができる程度のスペース		

小図4

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

小学校図画工作科 分科会

担当大学	金沢美術工芸大学		
講 師	寺井剛敏(金沢美術工芸大学教授) (進行:桑村佐和子(金沢美術工芸大学))		
対 象	小学校の図画工作科担当教員等	定 員	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	デザインから考える図画工作		
研修内容の概要	本研修では、児童が「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりできるようにする」授業の展開について考える。具体的には、児童が身近にある物がどのようにデザインの的に工夫されているかを感じとったり、考えたりし、伝え合いたいことから表したいことを見つけるためには、どのように授業を展開したら良いのか、またそれをどのように評価するのかについて考える。 【学習指導要領との関連】 小学校図画工作科：「A表現」(1)イ 「B鑑賞」(1)ア 【共通事項】		
内容と方法	1 講師のデザイナーとしての活動や学生制作などの紹介と、簡単な制作を通して、デザインの発想を体験的に学んでもらい、一般的にデザインとはどういうポイントで評価をしているのかを掴んでもらう。 2 参加者の協働によって、講師の示すモチーフを用いて、図画工作科の題材を考え、授業構想を試みる。 3 振り返り 1、2を通して学んだことや今後の授業展開について、参加者全体で振り返りを行う。		
到達目標	「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりできるようにする」授業について具体的に考え、その評価のポイントを明確にできる。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～14:40	講義(簡単な演習を含む)	リアルタイム
	14:40～14:50	休憩	各自作業
	14:50～16:00	演習(課題発表、グループディスカッション)	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	リアルタイム
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	事前に、準備してほしい道具、材料等をお知らせします。特別な道具等は必要ありません。		
特記事項	・事前に簡単な課題を出します。事後課題はありません。 ・資料はメールで配付します。グループ・ディスカッションのために、メールアドレスを教えてください。 ・受講する上での環境条件等 ZOOMによるライブ配信を受講できる環境であること。		

中高音1

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校音楽科・高等学校芸術科(音楽) 分科会

担当大学	徳島文理大学・東京藝術大学		
講 師	藤原道山(尺八演奏家、徳島文理大学客員教授)		
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科(音楽)の担当教員等	定 員	40 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「我が国の伝統音楽」の鑑賞に関する教材や指導法、授業展開の視点と方法を探究する		
研修内容の概要	本研修では、生徒の音楽の学びを一層充実させるために、教師自身が「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、我が国の伝統音楽を鑑賞するとともに、教材開発や指導法等について学び、授業改善を工夫する視点や方法を探究する。 【学習指導要領との関連】 中学校音楽科：「B鑑賞」(1)ア、イ 【共通事項】 高等学校芸術科(音楽Ⅰ～Ⅲ)：「B鑑賞」(1)ア、イ 【共通事項】		
内容と方法	本研修の講師、藤原道山氏は、古典から現代曲まで幅広いレパートリーを演奏し、さらには他のジャンルとのコラボレーションも積極的に推し進めている尺八演奏家であり、雅楽や能楽なども含む我が国の伝統音楽について深い造詣をもっている。今回はオンラインのため、実技研修ではなく、鑑賞に焦点化し、我が国の伝統音楽の特徴や社会的な意味などを明らかにする。 具体的には、いろいろな時代やジャンルの中から教材性の高い曲を選び、それらの聴きどころや聴かせ方のポイントを講師が解説しながら、CDやDVD、動画を視聴する。受講生一人一人は視聴した感想等をワークシートに記入し、その内容について意見交換を行う。また、講師が学校に出かけて行った授業の実際の動画を対象に授業研究を行い、指導法や授業展開について検討する。		
到達目標	1 鑑賞を通して我が国の伝統音楽の様々な特徴を捉えるとともに、社会における意味や価値を考察することができる。 2 授業改善に向けて、我が国の伝統音楽を扱った授業づくりに生かせる視点と方法を考察することができる。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～14:10	我が国の伝統音楽の鑑賞のポイント	動画視聴とリアルタイム
	14:10～14:30	ワークシートとディスカッション	グループワーク
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～15:15	講師による授業実践	動画視聴
	15:15～15:40	質疑応答とリフレクション	グループワーク
	15:40～16:00	総括(教科調査官)	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	・事前・事後課題：無 ・資料の配布方法：当日に提示		

中高音2

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校音楽科・高等学校芸術科(音楽) 分科会

担当大学	東京藝術大学		
講 師	アベタカヒロ(作曲家) 佐野靖(東京藝術大学音楽学部教授)		
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科(音楽)の担当教員等	定 員	40 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	創作の実践と授業研究を通して創作の授業の新たな視点や方法を探究する		
研修内容の概要	新型コロナウイルスの影響で、従来通りの方法では歌唱や器楽の実践が難しく、学校現場では様々な試行錯誤が続いている。また、これまで以上に鑑賞や創作の活動の割合が増えているという現実もある。 本研修では、創作の授業に焦点をあて、実践例をあげながら創作指導の可能性や課題を探究する。さらに、作曲家を講師に迎え、受講生一人一人が様々な方法で創作を体験することを通して、授業改善に結び付くアイデアや方法を学ぶ。 【学習指導要領との関連】 中学校音楽科：「A表現」(3)ア、イ、ウ 【共通事項】 高等学校芸術科(音楽Ⅰ～Ⅲ)：「A表現」(3)ア、イ、ウ 【共通事項】		
内容と方法	本研修は、創作の授業実践例を通してその可能性や課題を考察する研修(①)と、作曲家の指導のもと、創作の指導法や授業展開の新たな視点や方法を探究する研修(②)とで構成される。 ①創作の授業実践例としては、講師自身による中学校での創作の実践事例を紹介し、授業研究を通して明らかになった可能性や課題を提示するとともに、ICTを活用した授業研究の方法も提案する。 ②創作を実践する研修では、言葉からのアプローチやコード進行からのアプローチなど、作曲家から提案された様々な方法を受講生一人一人が体験することを通して、実際の授業で生かせる視点や方法、アイデアなどを探究する。また、作曲家の視点も取り入れながら、創作することの意義、教材開発の仕方、評価の方法などについて協議を行い、授業改善への工夫を検討する。		
到達目標	1 創作に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自分なりに創作表現を工夫する。 2 授業改善に向けて、創作の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察する。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:40	講師による創作の授業実践例に学ぶ(研修①ー1)	リアルタイム
	13:40～14:10	作曲家による授業実践(研修①ー2)	動画視聴
	14:10～14:25	休憩	
	14:25～14:45	創作指導の方法の提案と実践「言葉からのアプローチ」(研修②ー1)	各自作業
	14:45～15:00	作品の発表と評価	リアルタイム
	15:00～15:20	創作指導の方法の提案と実践「コード進行からのアプローチ」(研修②ー2)	各自作業
	15:20～15:40	作品の発表と評価	リアルタイム
	15:40～16:00	創作指導の可能性と課題(ディスカッション)及び振り返り	グループワーク
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	筆記用具、できれば五線紙と楽器(創作実践に使用) ※楽器については、リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、身近な楽器で旋律づくりに資料できる楽器なら何でも構いません。		
特記事項	・事前・事後課題: 無 ・資料の配布方法: 当日に提示		

中高美1

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校美術科・高等学校芸術科(美術) 分科会

担当大学	秋田公立美術大学		
講 師	尾澤 勇(秋田公立美術大学美術教育センター教授)		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	10 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	陰刻レリーフの研究:シーリングワックス印の制作を通して 授業への応用について		
研修内容の概要	軟石を用いて、シーリングワックス印の制作を行う。シーリングワックスとは手紙に蝋で封を行う欧州の文筆文具の伝統文化である。印面を刀で薄陰刻を行い、丁寧にレリーフを作成していく。最終的には、実際の蝋を溶かし、その上に押印して、印面のレリーフ表現と印からはみ出た蝋の表情のバランスを工夫する。印という鏡画像を陰刻するという緻密で丁寧な表現が必要となる。デザインで扱う構成や装飾表現で特に難しい、薄肉の表現は、高校生の意欲喚起にも十分応えられる題材である。溶かした蝋に捺すという行為は中学生にとってもワクワクする題材と言える。 【学習指導要領との関連】 中学校美術科：「A表現」(1)イ(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(ア) 〔共通事項〕 高等学校芸術科(美術)：「A表現」(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」ア(イ)、イ(ア)(イ) 〔共通事項〕		
内容と方法	1 自分を表すシンボルを基に発想・構想を行う。モチーフは、イニシャルでも図でも構わない。 2 印材を削り、印面にカーボン紙とトレーシングペーパーでデザインを写す。 3 印台に印材を固定し印面を彫刻する。途中経過は、油土に捺して試して完成に近づける。 4 耐水ペーパーで研磨、細部は、楊枝などにコンパウンドを付けて研磨して完成する。 5 グルーガンに封蝋を仕込み、カードに垂らし、シーリングワックス印を押捺する。 6 受講者同士でこの課題の授業への応用に対して、ディスカッションする。		
到達目標	・シーリングワックス印の印面(薄肉レリーフ)を完成し、実際に封蝋を押捺することができる。 ・実際に授業で展開するための指導上の注意点等を確認し、授業化の視点を深めることができる。		
スケジュール	13:00～13:30	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:30～13:45	印面の発想・構想を行い、印材の下処理を行う。	各自作業
	13:45～14:30	印面の制作。印面の彫り込み。 紐の制作。自制作。	各自作業
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:15	印面の制作。印面の彫り込み。耐水ペーパー等で研磨し完成。	各自作業
	15:15～15:45	蝋を溶かし、シーリングワックス印を押捺し、感想用紙を記入する。	各自作業
	15:45～16:00	作品講評(受講者同士のディスカッション)及び振り返り	グループワーク
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	篆刻刀、組ヤスリ、印台、油粘土。印材。カーボン紙、トレーシングペーパー、耐水ペーパー(400番～800番)、コンパウンド、封蝋、レジメ・デザイン用紙は、送付。 その他、必要に応じて、グルーガン、彫刻刀、研磨用の楊枝や割り箸、新聞紙、ウエスなどは持参してください。		
特記事項	・資料の配布方法:資料は郵送(篆刻刀、組ヤスリ、印台は送付した箱に入れ送り返してください。) ・受講する上での環境条件等:石の削りくずや、粉が多少です。		

中高美2

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校美術科・高等学校芸術科(美術) 分科会

担当大学	秋田公立美術大学		
講 師	皆川嘉博(秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻准教授)		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	10 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	彫刻素材研究:滑石の彫刻 授業への応用について		
研修内容の概要	彫刻素材を用いた授業を検討することによって、生徒の学ぶ力を育てる方法を検討する。 油粘土と滑石(彫刻素材)を使って、制作プランを考え、モデリングとカービングの表現方法の違いを実感することで生成した主題に基づいた構想や、材料と技法の違いによる見通しをもった表現の創意工夫等についての指導方法を模索する。 【学習指導要領との関連】 中学校美術科：「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)〔共通事項〕 高等学校芸術科(美術)：「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」ア(ア)、イ(ア)(イ)〔共通事項〕		
内容と方法	1 ペーパーウェイトに何をモチーフに制作するかプランを決める。モチーフは、花、動物、自由から選択する。 2 油粘土によりプランを立体に置き換える。 3 彫刻素材:滑石(6×6×2cm)を彫刻する。滑石は白または黒を選択する。モチーフは、花、動物、自由から選択。使用するもの:彫刻刀、金のか、鉛筆、トレーシングペーパー、紙やすり(80番～3000番) 4 受講教員同士でこの課題「彫刻素材:滑石の授業への応用」に対して、ディスカッションする。		
到達目標	・滑石を素材にペーパーウェイトを制作する。形を彫ること、磨くことが、できる。 ・実際に授業に実施できるか、検討する。		
スケジュール	13:00～13:30	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:30～13:45	動画「滑石に彫刻しよう」視聴	動画視聴
	13:45～14:30	油粘土でプランの制作。自制作。	各自作業
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:45	滑石の制作。滑石の彫り込み。紙やすりで磨き。	各自作業
	15:45～16:00	作品講評(受講者同士のディスカッション)	グループワーク
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	油粘土(レオン油土:黄)、滑石:白(6×6×2cm)または滑石:黒(7×7×2cm)、紙やすり(80番～3000番)等の教材は送付します。		
特記事項	・事前・事後課題の有無:有…滑石に彫るモチーフを事前に考える。 ・資料の配布方法:資料の郵送…油粘土、滑石は事前に郵送する。 ・受講する上での環境条件等:滑石の削りくずや、粉が多少、です。		

中高美3

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校美術科・高等学校芸術科(美術) 分科会

担当大学	秋田公立美術大学		
講 師	熊谷 晃(秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻准教授)		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	10 名

<テーマ別実践研修>プログラムの内容

テーマ	伝統工芸の漆器(菓子皿)製作体験を通し、作品制作に対する発想や構想に関する資質・能力を醸成し、完成後に使用することで、生活の中の美を感じる視点を養う。		
研修内容の概要	伝統工芸である沈金の漆器製作を行い、伝統文化の理解と工芸素材の体験制作を通して、素材と技法体験から得られる表現や素材の特性を、作品制作する上での発想や構想に関する資質・能力へと繋げる狙いがある。漆器の菓子皿に彫りの技法で、伝統文様を表現する。「沈金」という彫りの技法を体験し、菓子皿として使用することで、制作と鑑賞を行い、生活の中の美を感じる視点も同時に養う。 【学習指導要領との関連】 中学校美術科：「A表現」(1)イ(ア)(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」ア(イ)イ(ア)(イ)〔共通事項〕 高等学校芸術科(美術)：「B鑑賞」ア(イ)、イ(ア)(イ)〔共通事項〕		
内容と方法	伝統工芸である漆器製作を通して、伝統文化の理解と工芸素材の体験を行う。「椿皿」という椿の花を抽象化した形態の菓子皿を使用し、漆工芸の彫りを中心とした「沈金」技法で文様を彫りあげていく。最終的には彫った文様の凹み部分に、金粉を埋め込み文様を表現する。 1、漆器の椿皿(菓子皿)に文様の下図を転写する。(カーボン紙を使用) 2、沈金刀(彫り専用の刃物)を使用して、文様を点彫りと線彫りで表現する。 3、彫りが終わったら、彫りカスを綺麗に取り除き、彫りの凹み部分に漆をたんぽで刷り込み、ティッシュで余分な漆を拭き取る。 4、新しいたんぽに金粉をつけて、凹みに埋め込む。 5、余分な金粉を拭き取って完成。		
到達目標	・専用の刃物(沈金刀)の扱いを理解する。(刃物の角度や力のぬきかたなど) ・椿の花を抽象化した形態の「椿皿」や伝統文様の特色を理解する。 ・彫りの表現(スクラッチやカービングに繋がる)の一つである、「沈金」の技法を体験する。 ・金で表現された文様と朱色の菓子皿の、色調や表情を考察する。 ・漆の伝統と文化や生活を豊かにする美術の働きに対して理解を深め、授業に生かす視点を持つ。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:30	制作工程や使用方法、鑑賞について説明します	
	13:30～14:00	沈金刀の使い方の練習	
	14:00～15:00	各自が椿皿に文様を彫る、表面のカスを取り除く	
	15:00～15:20	たんぽで凹部分に漆を薄くすり込み、ティッシュで拭き取る	
	15:20～15:30	新しいたんぽに、金粉をつけて、彫った凹みに埋め込む。	
	15:30～15:40	金の文様の周りを拭いて、余分な金を取り除き完成	
	15:40～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	材料と道具(椿皿、沈金刀、下書き用紙、たんぽ、金粉、図案、ネルの布など)は全てこちらで用意し、事前に送ります。研修終了後に、「沈金刀」のみ、大学に送り返してください。		
特記事項	・事前・事後課題の有無:特になし ・資料の配布方法:大学から材料と道具を送付します。 ・受講する上での環境条件等:特になし		

中高美4

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校美術科・高等学校芸術科(美術) 分科会

担当大学	秋田公立美術大学		
講 師	柚木恵介(秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻准教授) ものづくりデザイン専攻		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	10 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	マテリアル・ラボ / つくり方をつくることを通した発想や構想の方法		
研修内容の概要	様々な素材・材料を使って試行錯誤しながら10cm角のキューブをつくりあげることを通して、素材やマテリアルの素材感やテクスチャーから、プロダクトデザインをはじめとした、デザインやアートの発想や構想の方法を体験する。この素材研究を通し、発想や構想の方法の一つとして生徒指導に結びつけ、新鮮な発見を行い授業に生かす視点を得る。 【学習指導要領との関連】 中学校美術科：「A表現」(1)及び「B鑑賞」(1)〔共通事項〕 高等学校芸術科(美術)：「A表現」(1)及び「B鑑賞」(1)〔共通事項〕		
内容と方法	世の中に流通しているプロダクトのほとんどは、加工性や効率性重視のもとに開発されてきた作り方で制作されている。しかし、3Dプリンターをはじめデジタルファブリケーションの台頭とともに、当たり前とされてきた工業的な作り方以外の制作アプローチが個人レベルでも開発可能になって久しい。工学や数学、物理学、化学といった分野とともに実験的なプロダクトを模索する実験行為も世界各地で行われており、「つくり方自体をつくる」行為は今後もますます活性化していくと見られている。 ここで言う「マテリアル・ラボ」は、身近にある素材にアクションを加え、その表情を利用し10cm角のマテリアルキューブを作るというものである。折る、束ねる、溶かす、圧縮する、などのあらゆるアクションを素材に与えた上で一瞬の表情を捉え、キューブ状の標本を作る。ソリッドな表情だけでなく、重力によって変化する様や伸縮する様子など、その素材による「素材らしい表情」を新たに発見するものである。		
到達目標	素材に触れ、自ら手を動かしながら発見する主体性。自分だけのオリジナルな表情を見つけ出す独自性。規格に近づけていく努力と、それをはみ出してもいい柔軟性を養うことを目標としている。また、プロダクトデザインにおける世界の潮流を知り、自身がその一部になれる可能性を実感することを目指す。この実習を通して、授業でのヒントを得る。		
スケジュール	13:00～13:15	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
		導入資料(パワポ)オンライン視聴	
	13:15～13:20	学生作品紹介	
	13:20～16:00	制作開始 制作終了 プレゼンテーション(相互鑑賞)	
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	・加工できる文房具や手工具。熱源が必要な場合はドライヤー、はんだごて、ヒートガンなどを用意。 ・接着用に接着剤、グルーガンなどの用意。		
特記事項	・事前準備として、生活の身の回りのもの(紙やシート状のもの、棒状や粒状のもの、変形しやすいものなど)を多めに用意していただく。 ・机上が汚れてもいいよう養生をしておく。		

中高美5

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

中学校美術科・高等学校芸術科(美術) 分科会

担当大学	武蔵野美術大学		
講 師	春原史寛(武蔵野美術大学芸術文化学科准教授) 三澤一実(武蔵野美術大学教職課程研究室教授)		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	ポップカルチャー作品の鑑賞活動における可能性		
研修内容の概要	中高生が関心を持つ身近な文化であるポップカルチャー(デジタルイラストやアニメ、マンガなど)の鑑賞については、未だ鑑賞題材として扱う事例は少ない。今回、「共通事項」が知識として位置付けられたが、ポップカルチャーの作品鑑賞においても、生徒が鑑賞に関する資質・能力を発揮し、「共通事項」に関する学びも主体的に深めていける題材と考える。 ポップカルチャー、特にデジタルイラストは、今日では日常生活においても目にする機会が増え、アートとしてその社会的な位置付けが確立しつつある。また、アニメの世界的な発信地としての日本文化にも触れながら、今日のアートとしてのデジタルイラストなどについて考察を深め、生徒が関心をもつ現代的な題材を、どのような視点で鑑賞したらよいか、ワークショップなどに取り組みながら題材開発について学ぶ。 【学習指導要領との関連】 中学校美術科:「B鑑賞」(1)ア(ア)〔共通事項〕 高等学校芸術科・美術Ⅰ:「B鑑賞」(1)ア(ア),(ウ),イ(イ)〔共通事項〕 高等学校芸術科・美術Ⅱ:「B鑑賞」(1)ア(ア),イ(イ)〔共通事項〕 高等学校芸術科・美術Ⅲ:「B鑑賞」(1)ア(ア),イ(ア)〔共通事項〕		
内容と方法	デジタル・イラストを中心として、さらにはアニメ・マンガにも言及しながら、ポップカルチャー作品の社会的な位置付け、鑑賞の意義と観点、具体的な方法について提案・解説する。さらに、ポップカルチャーである「イラスト」と、アート・デザイン領域の「イラストレーション」を比較し、ポップカルチャーと美術との接続も考える。 鑑賞ワークショップでは、実際にイラスト作品をデジタル描画の特性にも触れながら、多様な視点から鑑賞し、さらにグループ・ワークで、鑑賞の方法を発想することで題材化へとつなげる。 以上により、SNS等を介して生徒の生活空間にあふれるポップカルチャー作品を、生徒が鑑賞対象を自ら選択して主体的な鑑賞が行える可能性をもつ、新たな鑑賞対象の文化領域・作品として位置付ける。 その後、学習指導要領の視点から整理し、目標の設定、育むべき資質・能力を明確にし、題材開発が出来るようにする。		
到達目標	・ポップカルチャー作品における造形的な視点を理解し、作品が持つ鑑賞題材としての魅力を感じ取ることが出来る。 ・ポップカルチャー作品を題材として、鑑賞題材の開発が出来るようになる。		
スケジュール	13:00～13:15	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:15～14:05	講義:「ポップカルチャー作品鑑賞の意義と方法」(春原)	リアルタイム
	14:05～14:20	動画:「イラストレーターによる鑑賞のポイント解説」	動画視聴
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～15:10	演習: 鑑賞ワークショップおよびグループワーク	リアルタイム・各自作業
	15:10～15:25	演習: グループワークの発表・講評	リアルタイム
	15:25～15:55	講義 学習指導要領からの整理(三澤)	リアルタイム
	15:55～16:00	まとめ	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	・特になし。		
特記事項	・事前にポップカルチャー鑑賞についての意識調査アンケート課題を予定。事後課題はなし。 ・資料はデータのダウンロードによって配布予定。		

中学校美術科・高等学校芸術科(美術) 分科会

担当大学	武蔵野美術大学		
講 師	白尾隆太郎(武蔵野美術大学通信教育課程課程長・教授) 大坪圭輔(武蔵野美術大学教職課程研究室教授)		
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	20 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	意味を伝えるデザイン		
研修内容の概要	これまでの専門教育において、デザインにおける形の学習は、絵画の基礎教育とともに実施され、武蔵野美術大学通信教育課程においても、「造形基礎」という共通の科目の中で扱われてきた。しかし近年の初年次におけるデザイン基礎教育では、絵画の基礎とは別に、まずは学生の個性は抑制し、視覚の原理に基づきながら造形という問題を理解できるよう課題を準備している。他者がどのように形を認識し、意味を受け取っているのかを理解した上で、それらを従前に計画できる力、すなわちデザインを成立させるための造形教育を心がけてきた。本分科会では、そのような観点からデザイン基礎教育における下記の3つの課題を紹介しながら、他者に意味伝えるために造形を駆使し計画できる力、すなわちデザインの機能性と演出性について演習を交えながら説明する。これらの研修を踏まえて、中学校美術科及び高等学校芸術科美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおけるデザインの授業及び題材について検討を深める。 【学習指導要領との関連】 中学校美術科：「A表現」(1)イ(ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)〔共通事項〕 高等学校芸術科(美術)：「A表現」(2)、「B鑑賞」(1)ア(イ)〔共通事項〕		
内容と方法	(1)デザインのための造形基礎 デザインのためのデッサン課題の次のステップとして、予め準備された手の写真をトレースすることで、形を便化(単一の意味として形を純化する)させていく。さらに記号化した形を合わせながら重層的な構成を考え、トレーシングペーパーと鉛筆を使って、点や線や面による表現の可能性について学ぶ。 (2)形で意味を伝える“ピクトグラム” ピクトグラムは、多言語の人たちを対象に絵で意味を伝える記号として、1964年の東京オリンピックから採用されたものである。デザイン基礎教育において、ピクトグラムは形がどのような仕組みで人々に意味を伝えているのかを実感できる格好のテーマと言える。ここでは人の基本動作である「歩く」「走る」「跳ぶ」というピクトグラムを、ユニットパターンを使って構成し、記号としての意味を形成させる。ピクトグラムそのものをデザインすることが課題の目的ではないが、「意味が他者に伝わるか」「3つの形に統一性はあるか」「独創性があるか」を評価の観点として、形の記号化を学習する。 (3)意味を伝え楽しさを演出するデザイン デザインには、ピクトグラムのように形で意味を伝える機能的な側面と、その形をどのように表現するかという演出的な側面がある。動物園のヴィジュアルデザインを考える課題(“動物園に行こう”)では、動物の形を十分に観察させ、その特徴を記号化(図案化)させ、「動物園は楽しい施設である」という要件をどのように色や形で演出するかを考える。動物の種類を選び方、形の特性や色の選択など、楽しい雰囲気を出すための計画は、まさにデザインという仕事の核をなす経験でもある。 これらの演習課題は専門教育としてのデザインの基礎教育であるが、これ踏まえて中学校及び高等学校における特に伝えることを考えたデザインの学習について、その課題や可能性について検討していく。		
到達目標	1 デザインにおける造形的な見方・考え方について理解を深める。 2 意味を伝えるデザインの学習の在り方について検討し、理解を深める。 3 デザインにおける形や色彩の特性などを基に、デザインの鑑賞について検討を深める。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～15:00	「デザイン基礎教育」の実際	リアルタイム
		(1)デザインのための造形基礎	リアルタイム
		(2)形で意味を伝える“ピクトグラム”	リアルタイム
		(3)意味を伝え楽しさを演出するデザイン	リアルタイム
		講義 検討	
	15:00～15:10	休憩	
	15:10～16:00	意味を伝えるデザインの授業を考える	リアルタイム
		デザインの授業作品交流、検討	
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	受講者の指導によるデザイン授業作品の画像など(画面共有をできる画像がある受講者のみ)		
特記事項	・事前・事後課題：無 ・資料の配布：無 ・受講する上での環境条件等：Zoomによる受講、画面共有等、討議検討可能なICT環境		

高工1

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

高等学校芸術科(工芸) 分科会

担当大学	東京藝術大学		
講 師	上原利丸(東京藝術大学美術学部工芸科染織研究室教授) 橋本圭也(東京藝術大学美術学部工芸科染織研究室准教授) 渡邊五大(東京藝術大学美術学部美術教育研究室准教授)		
対 象	高等学校芸術科(工芸)担当教員等 中学校美術科・高等学校芸術科(美術)の担当教員等	定 員	40 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容

テーマ	「日本の伝統と文化 『友禅染』 ～糸目糊を用いた技法を学ぶ～」		
研修内容の概要	友禅染の特質や美意識を感じ取り、友禅染の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めるとともに技法を学ぶ。 生徒一人一人の発想や構想の独自性、表現の可能性を考える。 制作における工夫や学校授業での展開を考える。道具の役割を理解するとともに、道具の持つ機能的、形体的な美しさの理解を深める。 【学習指導要領との関連】 高等学校芸術科(工芸Ⅰ)：「A表現」(2)イ(ア)、(イ)「B鑑賞」(1)鑑賞 ア、イ(イ)〔共通事項〕 (※「身近な生活と工芸」寄りになった場合は、A表現 (1)のイ(ア)、(イ)の領域も取り扱う場合がある)		
内容と方法	「友禅染」の技法と文化についての講義を行う。 事前に配布された道具や材料を使用し、体験をしながら技法を学ぶ。 生地は絹を使い、古典柄やオリジナル柄の下図を用いて「青花」でトレースする。「糸目糊」を専用の道具を使って絹の上に置いていく。 中学校や高等学校での授業展開も考慮し、制作過程全体を見通して染めの手段を含む制作方法の工夫、また、代用できる道具についても講義の中で触れていく。		
到達目標	研修参加者が、工芸と美術の違いについて理解を深める。 伝統的な工芸作品の理解を深め、今後の授業での表現科目としての可能性と指導方法の工夫を考える。		
スケジュール	13:00-13:10	研修前の操作確認・事務連絡、趣旨説明	リアルタイム
	13:10-13:40	友禅染技法(文化・歴史を含む)についての講義、工程説明	リアルタイム
	13:40-13:55	青花下図トレース	リアルタイム
	13:55-14:15	道具の準備・調整	リアルタイム
	14:15-14:50	糊置き	リアルタイム
	14:50-15:00	乾燥兼休憩	リアルタイム
	15:00-15:40	乾燥・彩色	リアルタイム
	15:40-16:10	参考作品鑑賞・振り返り	リアルタイム
	16:10-16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	筆記用具・事前に配布された体験で使用するキット等(事前準備の説明書付き)・水を使用・きれいな雑巾		
特記事項	・事前課題：事前準備の説明書を確認後、受講者に準備をして貰う必要がある ・資料の配布方法：郵送(郵送費は開催者負担) ・受講する上での環境条件等・・・水が使用できる環境(ボウルや洗面器等に水を入れて準備)		

高書1

2020年度 芸術系教科担当教員等 全国オンライン研修会 テーマ別研修の内容

高等学校芸術科(書道) 分科会

担当大学	東京学芸大学		
講 師	加藤泰弘(東京学芸大学) 中里将大(福岡県立三井高等学校)、八谷勝生(山口県立宇部西高等学校)		
対 象	高等学校芸術科(書道)の担当教員等	定 員	40 名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	新しい教育課程と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた芸術科書道の授業		
研修内容の概要	現職教員2名による、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業提案と協議、教科調査官による指導・講評を通して、新学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容についての理解を深めるとともに、指導方法等の工夫と改善に取り組む上で必要となる、教員としての資質・能力を養うことを目的とする。 【学習指導要領との関連】 模擬授業① 高等学校芸術科(書道)：「A表現」(2)ア(ア)、イ(イ)、ウ(ア)(イ)〔共通事項〕 模擬授業② 高等学校芸術科(書道)：「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)〔共通事項〕		
内容と方法	1 模擬授業①(主体的な学びの実現に向けた書道Ⅰの授業：「牛糞造像記」)の動画配信とリアルタイムでの協議 2 模擬授業②(深い学びの実現に向けた書道Ⅰの授業：「これまでの学びを活用した鑑賞」)の動画配信とリアルタイムでの協議 3 教科調査官による指導・講評		
到達目標	・新学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科(書道)の指導内容について理解を深める。 ・新学習指導要領で求められている、指導方法等の工夫・改善に取り組む上で必要な、教員としての基本的な資質・能力を身につける。		
スケジュール	13:00～13:10	研修前の操作確認・オリエンテーション	リアルタイム
	13:10～13:50	模擬授業①及び授業説明(八谷勝生先生)	動画視聴
	13:50～14:30	模擬授業①についての協議	リアルタイム
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:20	模擬授業②及び授業説明(中里将大先生)	動画視聴
	15:20～16:00	模擬授業②についての協議	リアルタイム
	16:00～16:10	休憩	
	16:10～16:30	全体講評	リアルタイム
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説 芸術編』		
特記事項	・事前・事後課題：なし ・資料は、事前にメールによりデータで配布します。 ・受講する上で、リアルタイムの質疑応答は、Zoomを使用します。		